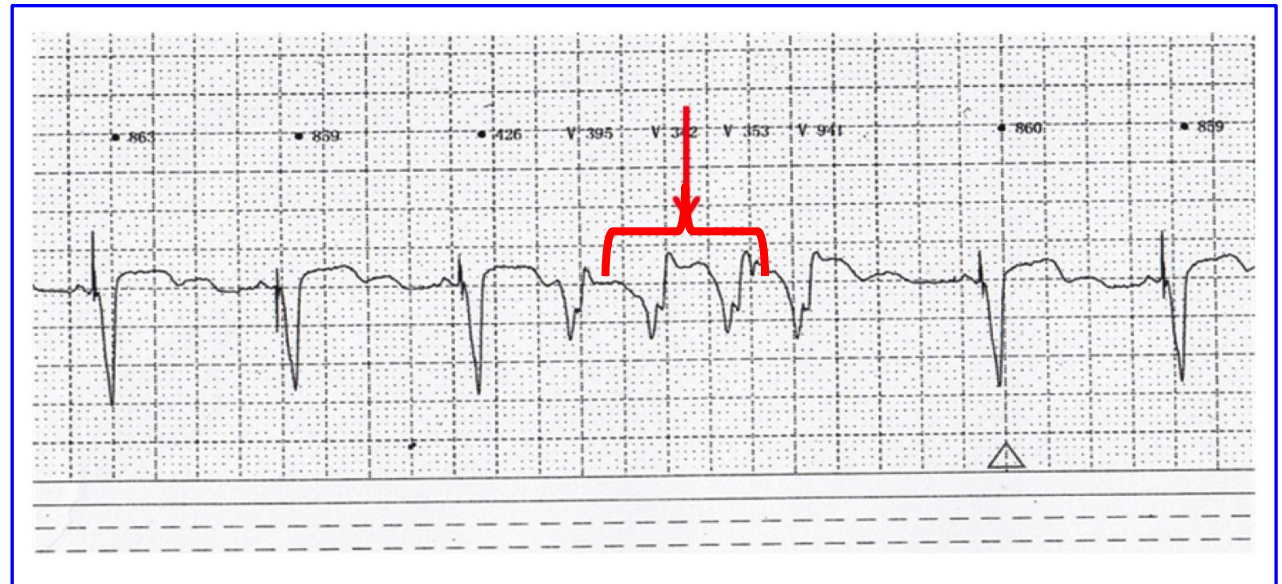
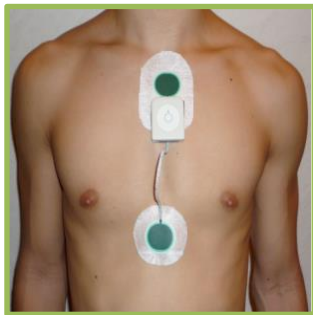


コミュニティのソーシャルキャピタル ---データによる検証---

2013.05.14 慶應義塾大学 金子郁容

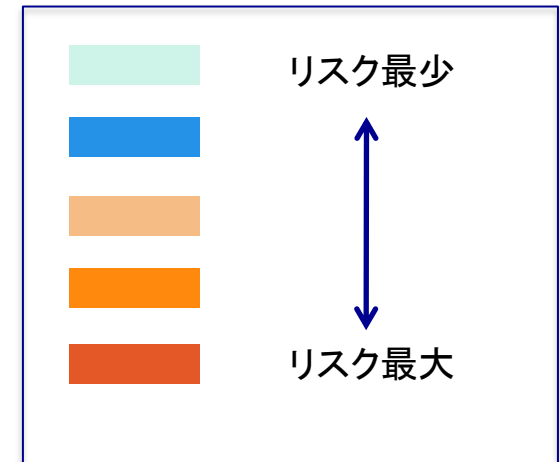
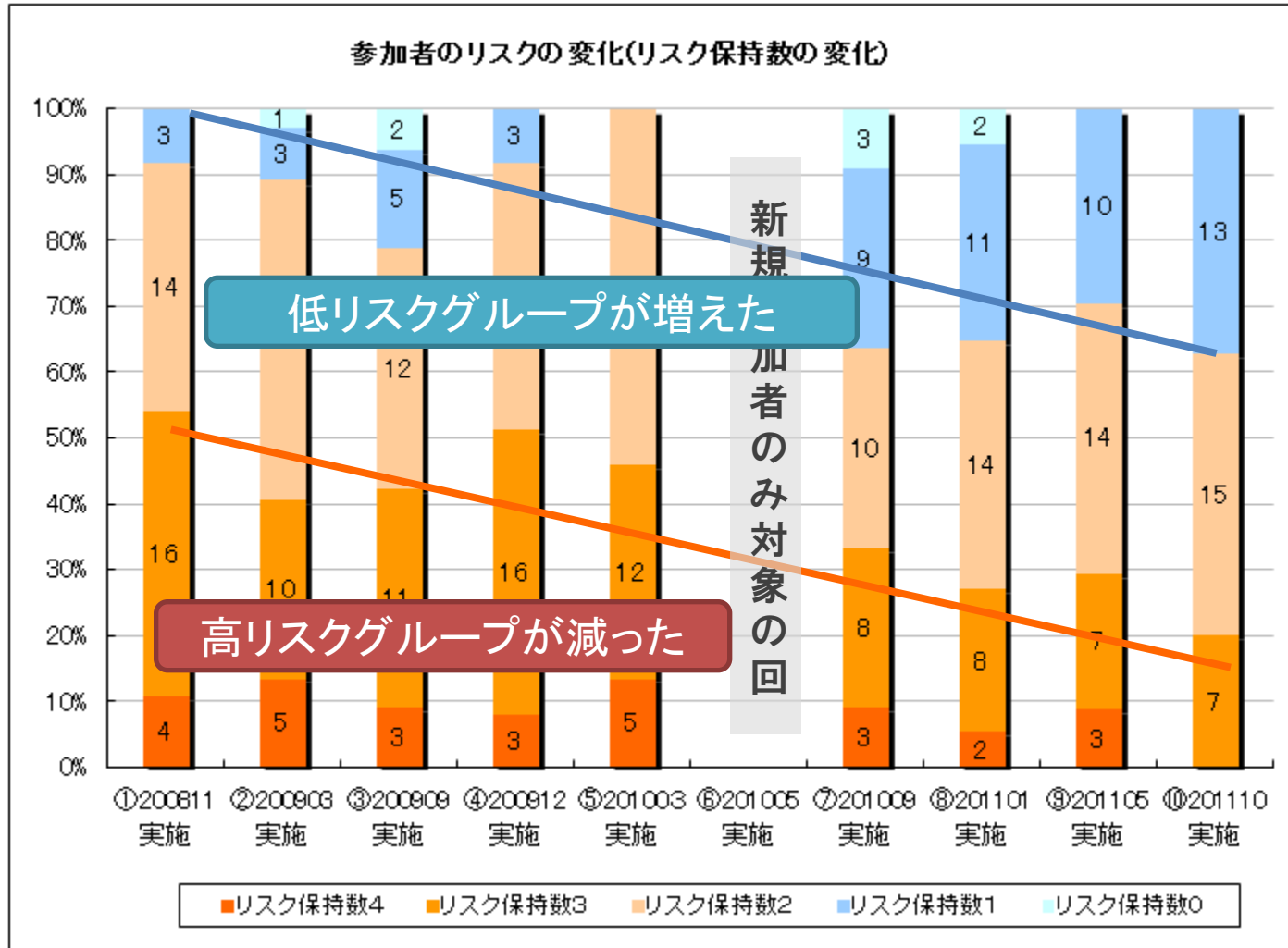
在宅で超小型センサー+通信システム 高度医療情報モニタリング

症例: 71歳、男性、陳旧性心筋梗塞、心室頻拍、ICD植め込み
血圧等のデータでは著変を認めなかったが、ホルター心電図では非持続性心室頻拍を認めた。ICD植め込みモニタリングでは検出できなかった。



奥多摩町での遠隔医療相談

4年間(2008~2011年度)の実証実験データ: 継続的な健康向上



血圧・血糖・脂質代謝・肝機能についてリスク基準値を設定し、対象者のリスク数の推移を測定。

継続参加者を対象とした全7回の検査のうち、6回以上受診している42人を対象として集計。

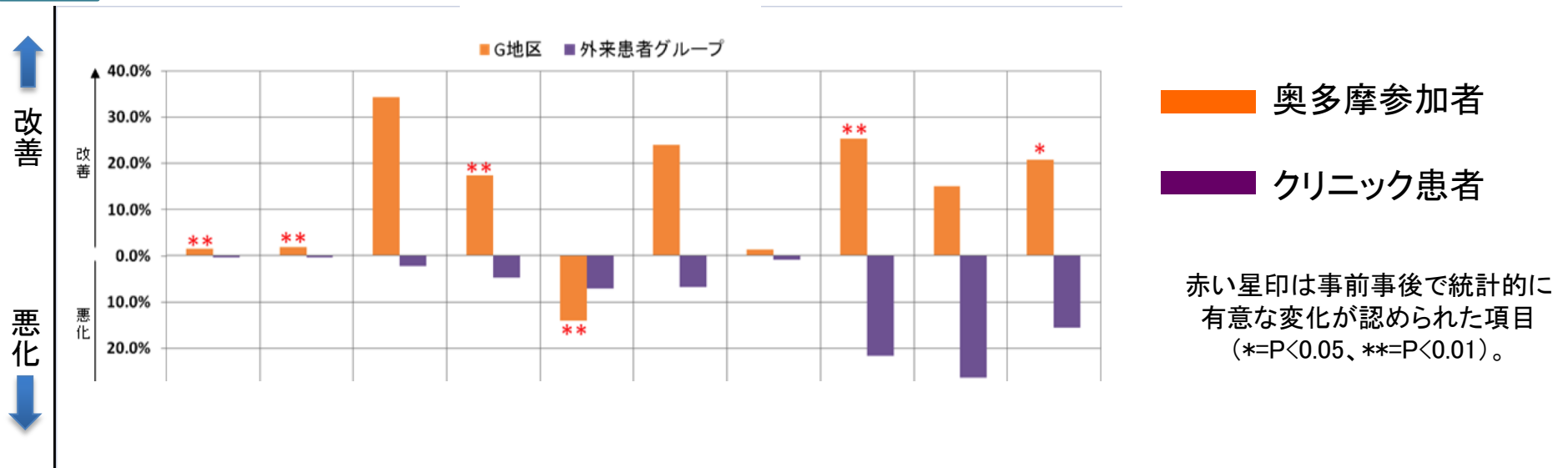
都心のクリニックの外来患者 VS 奥多摩町のG地区の遠隔医療参加者

外来患者グループ ～ 平均54.8歳、13名(男性11名、女性2名)
奥多摩G地区グループ ～ 平均58.4歳、13名(男性11名、女性2名)

- ・指導するのは同じ医師
- ・10項目の検査(体重、BMI、中性脂肪、HDLコレステロール、血糖値、HbA1cなど)
- ・数ヶ月の期間の最初と最後で血液検査
- ・両グループの患者の該当する検査結果の改善・悪化の平均値

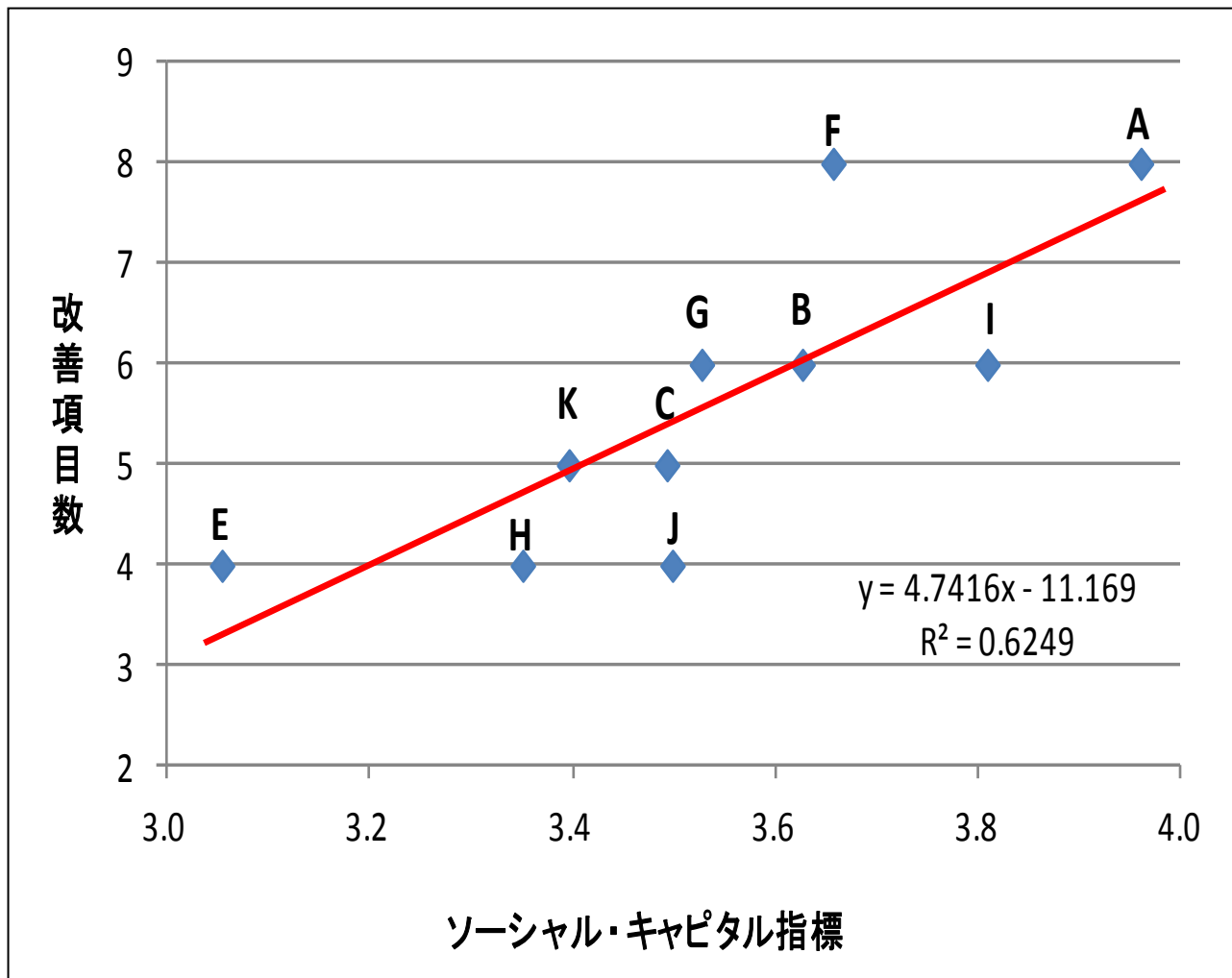
結果

外来患者グループ ～ 改善項目=0、悪化項目=7
奥多摩町G地区グループ ～ 改善項目=9、悪化項目=1



奥多摩町の地区の比較

ソーシャルキャピタルが高い地区ほど
遠隔医療相談の効果が高い



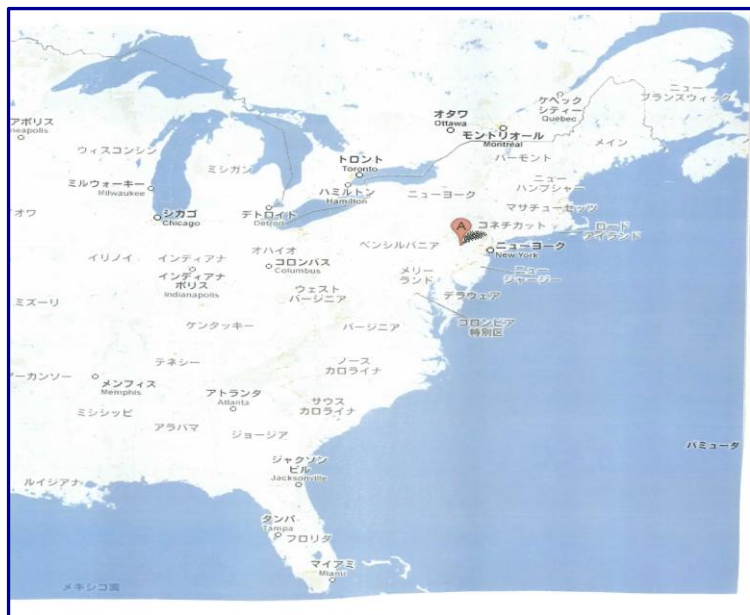
奥多摩町
2008～2012年度

11の実施地区
8つの検査項目

改善した検査結果数
と地区のソーシャル
キャピタルの高さの
関係

周辺地域との違いは家族のつながりの力

アメリカ、ペンシルバニア州にあるロゼット地域



人口1,600人ほどの小さな町。有害な石板採石場がある。周辺地域と比べて危険因子は変わらないのだが、1950年代の調査で心臓病の発生率が周辺地域の半数以下であることが判明。ロゼットは北イタリアからの移民が多く、お互いに助け合い、多世代同居生活で、高齢者が大切にされた。それこそが、心臓病発生率の低さの要因であると結論づけられた。しかし次第に都市化が進み10年間で心臓病発生率は近隣レベルになってしまった。

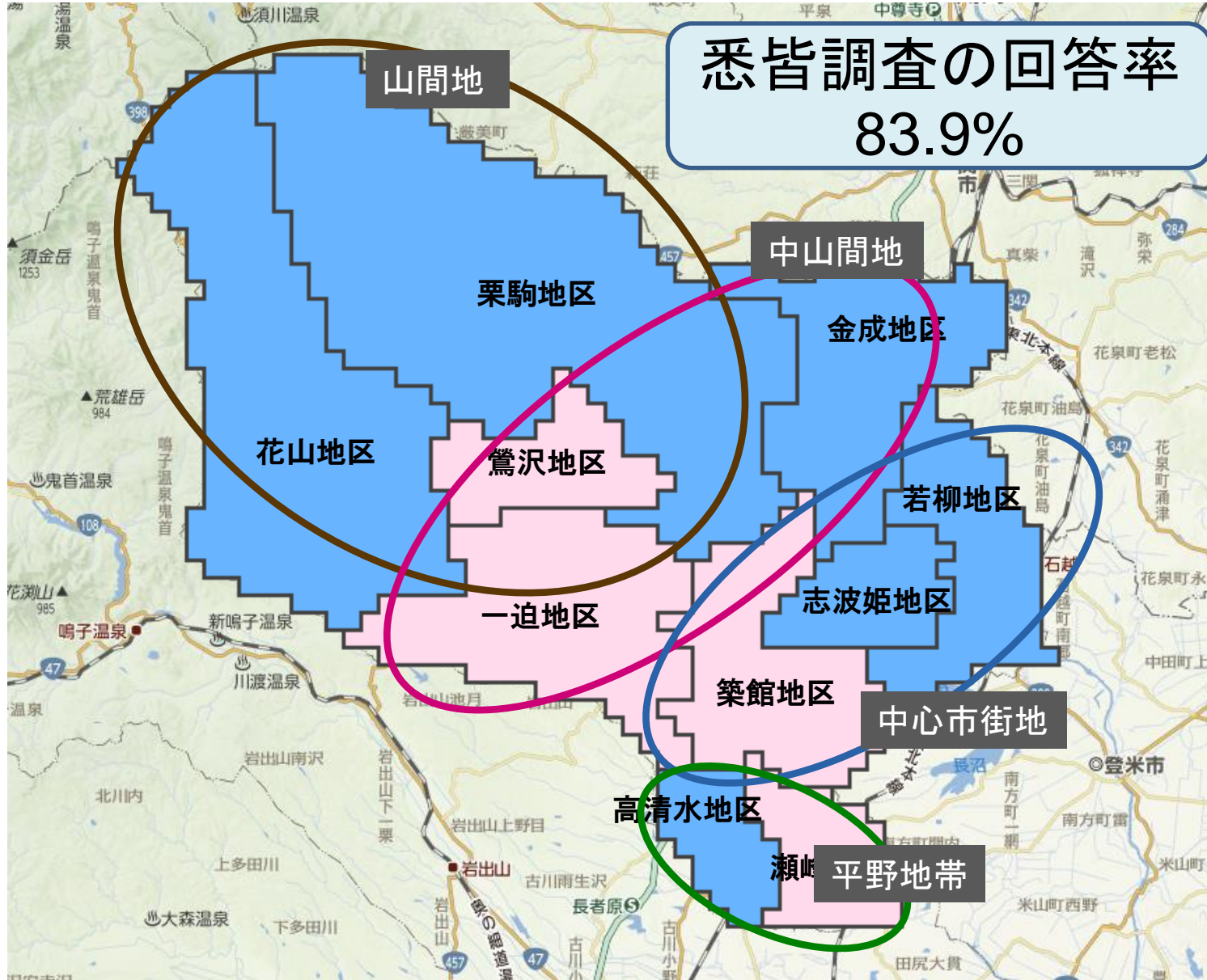
ソーシャルキャピタルが
高いコミュニティ

~

交流が盛ん
自発的なつながりがある

宮城県栗原市:65歳以上の高齢者を対象にした悉皆調査

10地区から地形と人口規模を考慮した層化多段階抽出で6地区を選択し高齢者の悉皆調査をした



青い地区が選択された地区
65歳以上高齢者人口=14,781人

◇山間地

栗駒
花山
鶯沢

◇中山間地

金成
一迫

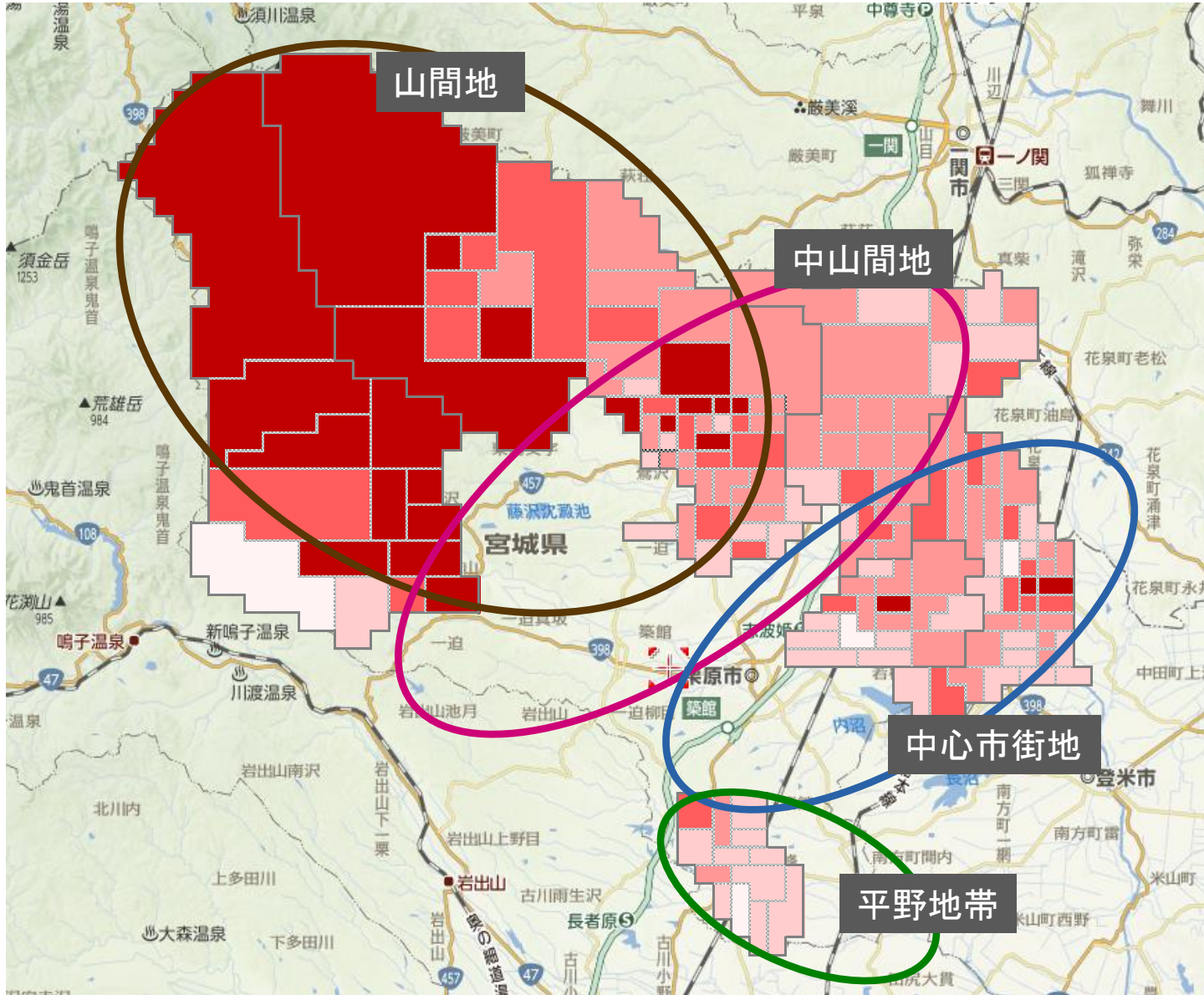
◇中心市街地

若柳
志波姫
築館

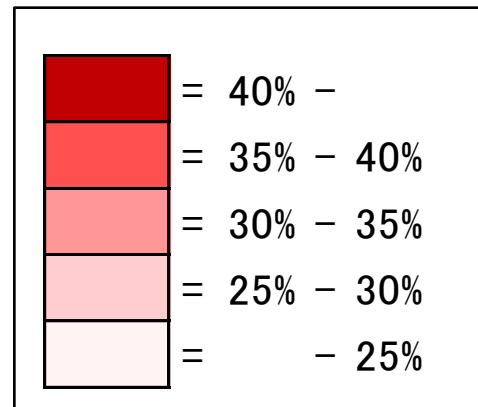
◇平野地帯

高清水
瀨峰

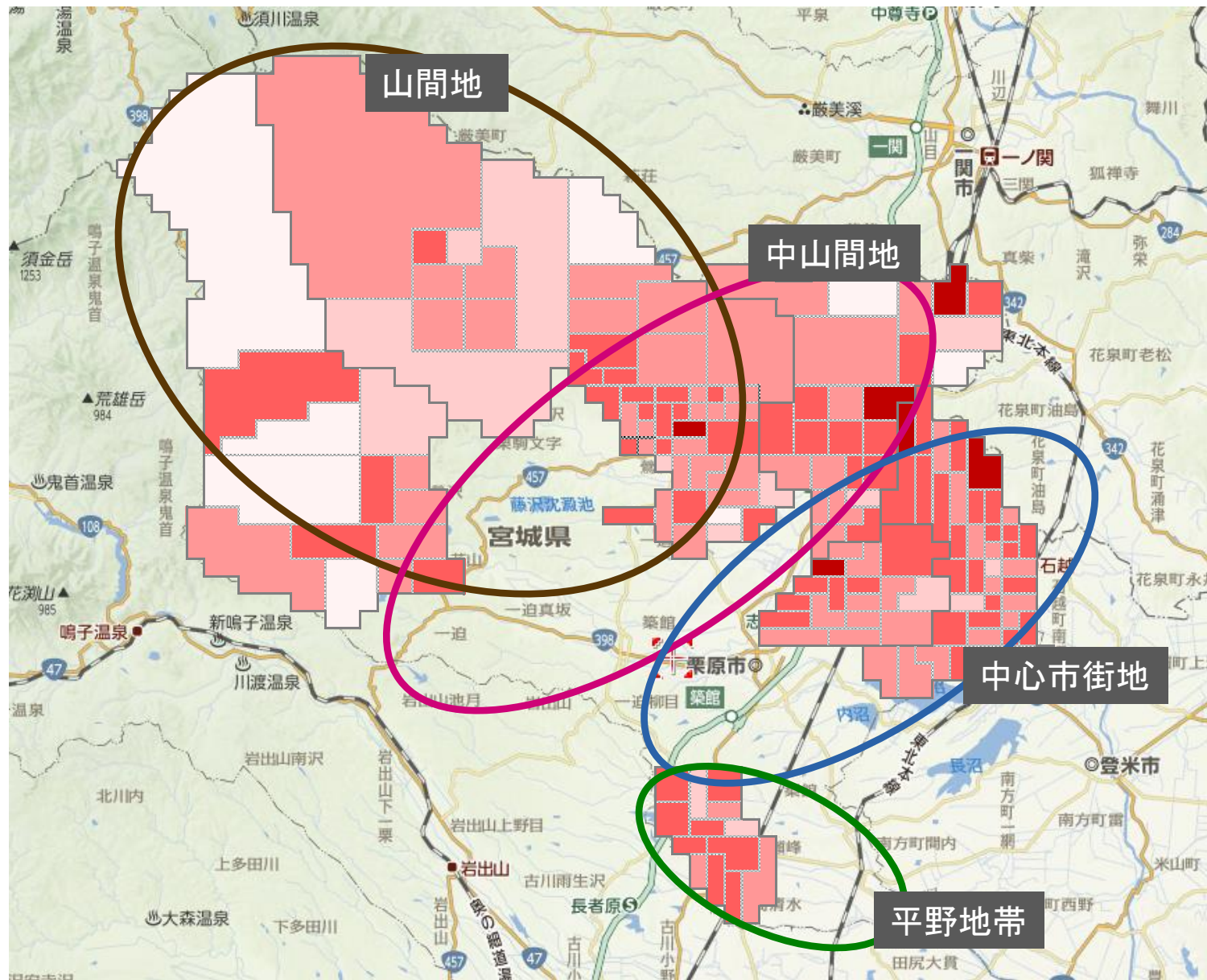
高齢化率



山間部で
高齢化率が
高い傾向にある



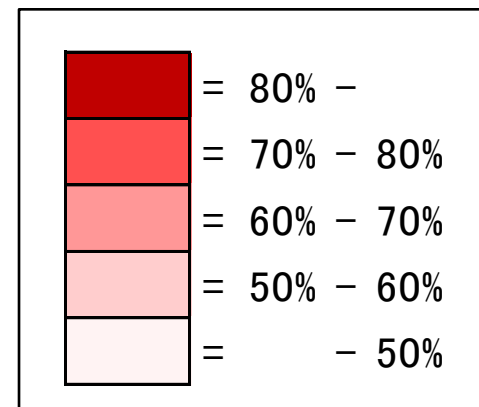
健康度



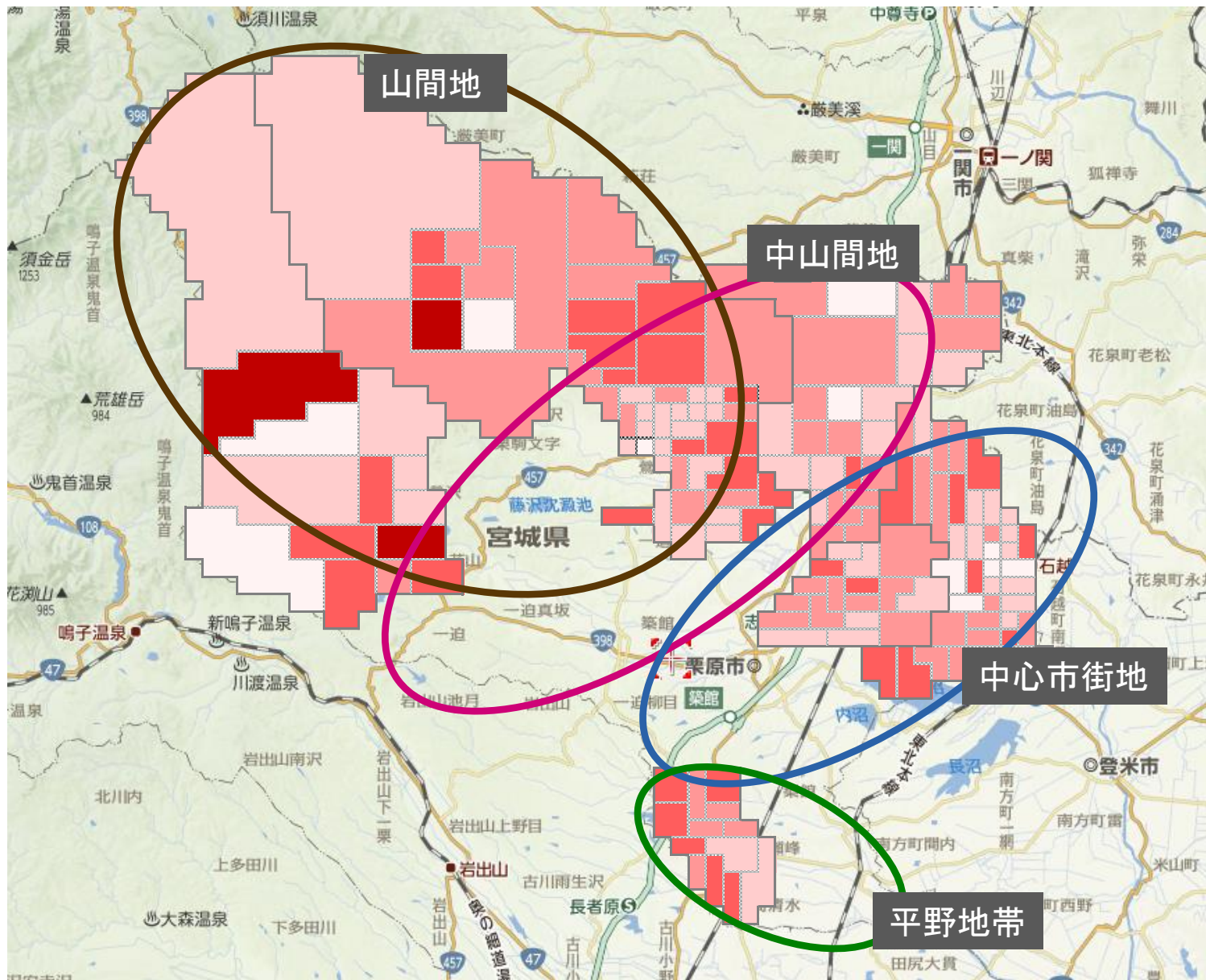
ADL11以上の率

ADL: 老研式活動
能力指標
13点中11点以上
で「日常生活に支
障がない」

(n=9,913)



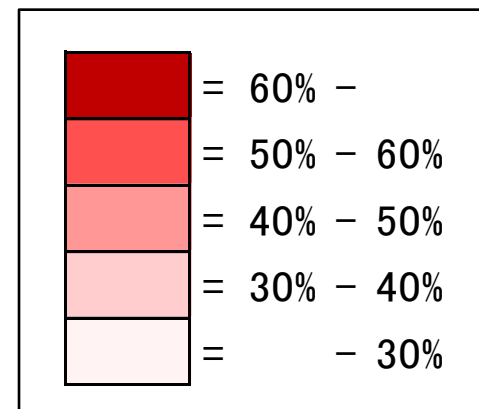
ソーシャルキャピタル



「近所で協力し合う」割合 (10数項目のひとつ)

協力し合う率は高齢化が進んでいる地区でも高いところがある

(n=11,276)



健康度とソーシャルキャピタルは強く相関している

栗原市の6地区における65歳以上の住民の悉皆調査(14,781人)結果; 全160行政区

